

## 平成24年度 第2回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 :平成24年7月30日(月)17:00~19:00

II. 場 所 :私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 :萩原委員(skype)、川島委員、名取委員  
(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 議事概要

#### 1. 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

前回委員会からの積み残しである「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」について、委員が作成した素案をもとに検討を進めた。

##### (1) FD活動について

- ・カリキュラムの全体像と当該授業の位置づけを明確にすることは、常に求められる。
- ・シラバスには到達目標や評価基準が記されることは当然である。
- ・評価指標の実質化が必要である。海外からの学生を呼び込むためには、世界的な標準に合わせるべきである。学生に、どのような能力を付与するのかを明確にするような指標の作成が必要である。
- ・能動的な学習の促進と、教員同士の教え合い、学び合いが直接的に関連するかは不明確。間接的には関連するとは
- ・FD活動については、組織として何をするかを検討することが重要である。
- ・FD活動に対して、教員を積極的に参加させるための措置が必要ではないか。
- ・FD活動への参加を高めるためには、集中的な開催が必要である。教員の業務負担は多く、日常的な活動に参加させるのは困難である。
- ・プロジェクト的に、複数の教員が担当する科目を設置することも検討課題である。
- ・FDとして授業を社会に公開することが求められるのではないだろうか。
- ・FD活動においてもICTを積極的に活用すべきである。
- ・外部の専門家などを講師として招聘することを、組織的に実施することも検討すべき点である。

以上の議論を通じて、教育力を実現するためのFD活動をまとめた。

##### (2) 大学としての課題

- ・大学としてICTを用いた教育手法を支援するという点についていえば、現状でも一定の達成を果たしている。ただし、強力なバックアップが求められる。
- ・大学として、教育力向上のためのプラットフォームを一元的に管理すべきである。

- ・大学として、教育資源に対する財政的な支援も必要である。
- ・シラバスの内容が、学生にどの程度浸透しているのかが疑問である。
- ・FD活動の意義を、学生に伝えることが重要である。

以上の議論を通じて、教育力を実現するための大学としての課題をまとめた。

## 2. 政治学教育における学士力の考察について

以前まとめた「政治学教育における学士力」の考察として、5つの到達目標を、どのような背景で掲げているのかを明示する。また全体的な背景についても解説を行う。

役割分担として、全体像・到達目標1～5について各委員が担当することが決められた。

## 3. 今後のスケジュールについて

### (1) 今後の検討課題

- ・学士力策定の背景を執筆する。
- ・到達目標それぞれについて、その解説文を書く。

### (2) 次回の委員会

日時：平成24年8月21日（火） 17:00～19:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室